

## II 研究のねらい

思春期のさまざまな問題行動を持つ生徒への指導援助においては、問題行動の要因のみを探すような理解にとどまらず、人格の成長・発達を包括的に把握することが必要である。そこで、次の3点から研究を進めていく。

① 「自我同一性」の観点から生徒理解を深める  
「自我同一性の確立」の観点から、生徒理解を深め、指導援助の方向性を明らかにする。

自我の成長・発達を包括的に把握するため、その生徒の心理社会的な発達を成育歴からたどり、家庭環境、学校での交友関係、心理的特質の変遷など、幅広い資料を基に総合的な生徒理解に努める。

② 「自我同一性」評価尺度の研究を進める  
「自我同一性の確立」という発達課題の達成度を把握するために、評価尺度の研究を進める。

③ 「自我同一性」評価尺度を教育相談へ活用する  
評価尺度を生徒への教育相談に活用し、効果的な指導援助に役立てるとともに、生徒の自我の成長の評価・検証にも活用する。

## III 研究計画

### 1 「自我同一性」の観点による教育相談

#### (1) 研究の内容・方法

- 自我の成長・発達の観点から、生徒理解を深める。
- いくつかの相談事例に基づき、適切な指導援助の方向性をまとめる。

#### (2) 研究対象

当教育センターに相談に来所した高校生

### 2 「自我同一性」の評価尺度の研究

#### (1) 研究の内容・方法

- すでに研究・開発されている自我同一性の評価尺度の比較検討を行う。
- 試験的に、評価尺度を活用し、実施上の課題を明らかにする。

#### (2) 研究対象

県立高等学校2年生男子1学級(43名)

### 3 「自我同一性」評価尺度の教育相談への活用

#### (1) 研究の内容・方法

- 評価尺度を用い、「自我同一性」の観点からの理解を深め、指導援助の評価・検証を行う。
- 自我の成長・発達を促す指導援助の在り方をまとめる。

#### (2) 研究対象

当教育センターに相談に来所した高校生

## IV 研究経過とまとめ

### 1 「自我同一性」の観点による教育相談

高校生への指導援助事例により、自我の成長・発達にかかわる特徴的な部分を中心にまとめる。

#### (1) 集団不適応女子高校生の事例

##### ① 問題の概要

高校1年生のA子は「集団場面で緊張する生徒」として、3学期に当教育センターに相談に訪れた。A子は、「緊張するとおならが漏れてしまう」と思い、自分の後ろに人がいる場面や生徒が集まる場面を避け、学校不適応感を強くしていた。

##### ② 資料

###### (ア) 家庭環境

○家族構成 両親、祖父、A子、妹(中学2年)

<父>無口だが、まじめで仕事一筋。養子のため祖父との血縁関係はない。

<母>人づき合いが苦手。

<妹>明るく活動的。成績優秀。

###### (イ) 成育歴

乳幼児期の養育の中心だった祖母は、しつげに厳しく心配症だった。そのためA子は、あまり外遊びをすることなく、交遊関係は希薄だった。第一反抗期もなく、まじめで手のかからない子どもだった。

小学校入学後も交友関係は少なく、小学校5年生以降は、仲間はずれの子と二人きりになった。その後、集団場面で緊張すると「おなかが張る」という症状が現れ始めた。中学2年生になり症状が悪化、徐々に集団生活が苦痛になり、全校集会にも参加できない状態となった。

高校1年生の2学期、級友とのトラブルがあり、